

**still moving 第2弾企画！金氏徹平、坂東幸輔ら新たなプロジェクトメンバーを迎え、オルタナティブの新しいかたちを探して。**



公立大学法人 京都市立芸術大学（学長：鷺田清一）は、2016年4月16日（土）から5月29日（日）まで、京都市立芸術大学ギャラリー @KCUA および崇仁地域にて、「still moving - on the terrace」を開催します。

京都市立芸術大学は数年後に、JR 京都駅の東側エリアである「崇仁地域」への移転を予定しています。2015年3月7日～5月10日には、国内外のアーティストが集い、この地域へ移動していく「第一歩」として、展覧会「still moving」を実施し、同時期にギャラリー @KCUA では「still moving @KCUA」と題し京都を拠点に国内外で活躍する若手から中堅までのアーティストを紹介しました。

その後も、この地域が国際都市・京都の文化芸術の新たな拠点となることを目指し、交流事業や学生の展示など、さまざまな移転プレ事業を継続的に展開しています。

そしてこの春、still moving の第2弾企画として、京都市立芸術大学ギャラリー @KCUA をメイン会場に「still moving - on the terrace」が立ち上がります。本展では、本学関係者を中心としたプロジェクトメンバーが、移転後の本学が果たす役割を想定しながら、ギャラリー @KCUA 内のあらゆる場所で、そして時には崇仁地域にて、日々その形を変化させつつ、新しい生き方・働き方・コミュニケーションの仕方を模索していきます。それは、一般社会ではリスクがあると思われることでも、失敗を怖れずに取り組むことができる大学だからこそ可能な、日常的な価値観の外側に軸足を置いた創造的実験になることでしょう。「still moving」は、未来の芸術大学の姿を思い描きながら、オルタナティブの新しいかたちを求め、挑戦を続けます。

プロジェクトメンバー：井上明彦、金氏徹平、小山田徹、杉山雅之、高橋悟、

長坂常ノスキーマ建築計画、Studio INAMATT、坂東幸輔、森野彰人

プロジェクト・コーディネート：京都市立芸術大学ギャラリー @KCUA

## EXHIBITION STATEMENT

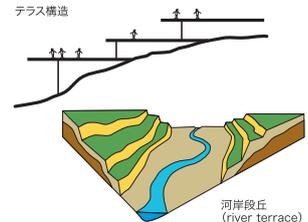
京都芸大の移転のコンセプトでもある On the terrace 的活動の精神を見ていただこうと考えた。その結果、会場である@KCUA というギャラリー内の施設を誤用しもう一つの@KCUA を感じてもらおうと考え各所に新たな用途を振り分けました。どんな誤用かは見てのお楽しみ。 — 長坂 常（本展会場構成）

《terrace》とは、内から外に張りだして、人と人びと、人と自然と触れあわせる共有空間である。崇仁地域での京都市立芸術大学新キャンパスを、「京都の市民文化の新たな火床」（床＝テラス）として位置づける。

《terrace》とは、複数の世代、異なる関心をもつ人びとが、地面から少し浮いた板敷きの場所で（つまり、目下の利害関心から自分を外し）、自分たちの現在と子どもたちの未来を語りあう場所である。

### terrace [英]、terrace [仏]

- 古フランス語では「盛り土」を意味する。< terra [ラ] 土、大地、地球
- ・建築におけるテラス：建物本体からの突き出し部分、屋根の上の面
  - ・地形におけるテラス：高低差のある平坦な面
- 五感を刺激する共有空間  
→懐かしい驚きで、うきうきと心踊る場所



## ARTISTS

**井上明彦** | 1955年大阪生まれ、京都大学大学院博士課程中退。京都市立芸術大学美術学部教授（造形計画）。2006-07年文化庁新進芸術家在外研修（パリ）。近年の主な展覧会に、「新シク開イタ地」（神戸アートビレージセンター、2016）、「nara—水と地のあいだ」（ギャラリー・サンク、奈良、2014）、「反重力」（豊田市美術館、2013）、「Trouble in Paradise / 生存のエシックス」（京都国立近代美術館、2010）など。still moving(2015)では、二瓶晃と共に、崇仁地域を高瀬川を軸にした地形学的次元から捉え返すプロジェクト《Tracing Suujin》を実施した。本展ではギャラリー @KCUA での展示のほか、「オーエアトリ研究部」の活動などを崇仁地域で実施。

井上プロジェクト参加学生：井関律葉、兒島優美、熊田悠夢、佐々木優、田中美帆、出口義子、松岡美里 ほか



Photo: Takeru Koroda

**金氏徹平** | 1978年京都府生まれ。2001年京都市立芸術大学在籍中、ロイヤル・カレッジ・オブ・アート（ロンドン）に交換留学。2003年京都市立芸術大学大学院彫刻専攻修了。京都市立芸術大学美術学部彫刻専攻講師。プラスチック製品やキャラクターフィギュアなどのおもちゃ、雑誌の切り抜き、シールなど身の回りにあるものを素材に、コラージュの手法で制作を行う。国内外での個展や企画展多数。近年は舞台美術も手がける。still moving (2015)ではサテライト会場となった京都市立芸術大学ギャラリー @KCUA にて作品を展示。

金氏プロジェクト参加学生：今井菜江、河原功也、小松千倫、許芝瑜、平田万葉、藤田紗衣、松永愛沙、本山ゆかり、森美哉子



Photo: Takeru Koroda

**小山田 徹** | 1961年鹿児島生まれ、京都市立芸術大学美術学部卒業。同大学美術学部彫刻専攻教授。84年、大学在学中に友人たちとパフォーマンスグループダムタイプを結成。おもに企画構成、舞台美術を担当し、国内外の数多くの公演に参加する。ダムタイプの活動と平行して90年から、さまざまな共有空間の設計・開発を始め、コミュニティセンター「アートスケア」「ウィークエンドカフェ」などの企画をおこなうほか、コミュニティカフェである「Bazaar Cafe」の立ち上げに参加している。still moving (2015)では毎週末に塩小路高倉の角の空地に、《Weekend café》をオープン。小さな焚き火を囲み、その場を訪れる人々による交流の場を創出した。回を重ねるごとに来場者は増加し、全10回の合計で2,600人を超えた。



Photo: Kenta Hasegawa

**杉山雅之** | 1960年京都生まれ、京都市立芸術大学大学院美術研究科修了。公共空間に巨大な鉄の彫刻を配置するインスタレーションを手がけ、公共空間における観客とコミュニケーションの意味を再考する作品を制作している。近年の主な展覧会に「Sculpture by the sea Cottesloe 2014」（オーストラリア、2014）、「犬と歩行視」（京都市立芸術大学ギャラリー @KCUA、2013）、「歩行視と円筒形」（あさご芸術の森美術館、2013）など。still moving (2015)では、崇仁地域にあるフェンスで囲まれた空地に、パンチングメタルを用いた立体を複数個配置した作品《歩行視のためのオブジェ ここに來しもの -Which has come-》を展示。本展ではギャラリー @KCUA のほか、崇仁地域の空地（高倉塩小路）でも作品を展示。



Photo: Takeru Koroda

## ARTISTS

**高橋 悟** | 1958年京都生まれ、京都市立芸術大学美術学部卒業、イエール大学大学院美術専攻修了後、カーネギーメロン大学助教授、ミシガン大学准教授を経て2008年より京都市立芸術大学美術学部構想設計専攻教授。「生存の技法（私たちが生きてゆく為の創造的な技術）」という視点から身体・知覚・言語の関係を再配置し、医療・生命・環境や制度を包括する芸術の研究・制作のプロジェクトを内外の研究機関とともに展開。また従来の美術教育の枠組みを超えた、新たな芸術教育のありかたについての模索と実践を行う。PARASOPHIA：京都国際現代芸術祭2015参加作家として京都市美術館で《装飾と犯罪：Sense / Common》を展示するとともに、still moving (2015) では、これと呼応する形で《それから：Still》と《それから：Moving》の2作品を発表。



Photo: Takeru Koroda

**長坂 常** | 1971年大阪生まれ。1998年東京藝術大学美術学部建築学科卒業。スキーマ建築計画代表。2007年にコラボレーションオフィス「HAPPA」（上目黒）を設立。仕事の範囲は家具から建築まで幅広く及び、国内外の著名ブランドとのコラボレーションも多数実現している。代表作に『Sayama Flat』『はなれ』『ブルーボトルコーヒー清澄白河コースタリー & カフェ』など。still moving (2015) では会場構成を担当。元・崇仁小学校の古い床を研磨し真新しい床の表面によって導線を浮かび上がらせるほか、地域内に点在する既存フェンスを加工し、パブリックファニチャーなどを構成した。現在、京都芸大移転計画の唯一の外部アドバイザーを務める。



Photo: Takeru Koroda

**Studio INAMATT** | アムステルダムの設計事務所でHEMA、Bijenkorfなどの百貨店やSchiphol Amsterdam、コンサートホールなどを手掛けていたイナ・マイヤーとマティス・ヴァン・クルイセンが2005年に独立。Studio INAMATTを設立後、設計・イベントのデザインやインテリア・ファッションブランドにおけるアートディレクターとしても活躍中。アイントホーフェンデザインアカデミー講師。still moving (2015) では崇仁地域にてワークショップ「ハッピーウィード！」を実施。本展ではその続編となる展示を行う。



Photo: Hideaki Hamada

**坂東幸輔** | 1979年徳島県生まれ。2002年東京藝術大学美術学部建築学科卒業。2008年ハーバード大学大学院デザインスクール修了。スキーマ建築計画、ティーハウス建築設計事務所、東京藝術大学美術学部建築科教育研究助手、aat+ ヨコミゾマコト建築設計事務所を経て、2010年坂東幸輔建築設計事務所設立。徳島県神山町で空家再生プロジェクト「空家町屋」、徳島県牟岐町で「出羽島プロジェクト」を行っている。京都市立芸術大学美術学部環境デザイン専攻講師。



**森野彰人** | 1969年京都生まれ。京都市立芸術大学大学院美術研究科修了。京都市立芸術大学美術学部陶磁器専攻准教授。1997年多治見第五回国際陶磁器展美濃'98銀賞受賞。2007年京都市芸術新人賞受賞。2012年タカシマヤ美術大賞受賞。



## オープングレセプション

プロジェクトメンバーが集まり、オープングレセプションを開催いたします。是非ご参加ください。

会場：京都市立芸術大学ギャラリー @KCUA

日時：2016年4月16日（土） 16:00～

PREVIOUS "still moving"



「still moving」 2015年3月5日～5月10日  
出展作家：石原友明、崇仁ゼミ、井上明彦 + 二瓶晃、小山田徹、かげろふし展実行委員会（企画：林田新、参加アーティスト：小田原のどか、高橋耕平、水木望）、杉山雅之、高橋悟、田中和人 + 増本泰斗、谷中佑輔、久門剛史、ヘフナー/ザックス、RAD-Research for Architectural Domain-  
会場：元崇仁小学校 および 崇仁地域



「still moving @KCUA」 2015年3月5日～5月10日  
出展作家：青木陵子、伊藤存、伊東宣明、金氏徹平、清田泰寛、田中和人、唐仁原希、花岡伸宏、水田寛、森下明音、山本麻紀子  
会場：京都市立芸術大学ギャラリー @KCUA  
Photo: Takeru Koroda

【プレスリリース お問い合わせ】

広報担当 | 西谷枝里子 (リレーリレー)

Tel. 090-2062-6963 Fax. 075-253-1510 E-mail. eriko@relayrelay.net

## ■ 関連資料

still moving 展覧会カタログ

2015年3月5日～5月10日に開催した「still moving」のカタログを発行しました。

ご希望の方はギャラリー @KCUA までお問い合わせください。

ページ数：121P / カラー

サイズ：B5

## ■ 開催概要

展覧会名称：京都市立芸術大学移転プレ事業 「still moving - on the terrace」

企画：京都市立芸術大学ギャラリー @KCUA

主催：京都市立芸術大学

協力：京都市

平成 28 年度文化庁優れた現代美術の海外発信促進事業

会場：京都市立芸術大学ギャラリー@ KCUA

(住所/京都市中京区押油小路町 238-1)

崇仁地域

(JR・京都市営地下鉄「京都駅」から東に徒歩約 10 分

杉山雅之作品を高倉塩小路エリアの空地にて展示中)

会期：2016年4月16日(土) - 5月29日(日)

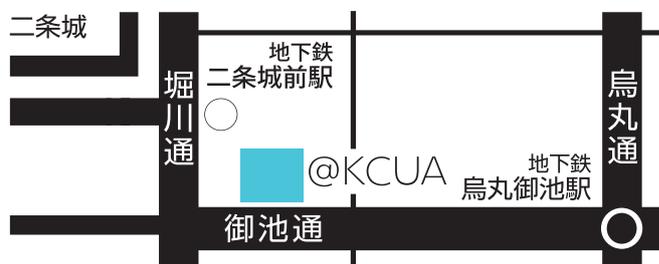
11:00 ~ 19:00 (最終入場 18:30 まで)

月曜休館

入場：無料

お問い合わせ：京都市立芸術大学ギャラリー@ KCUA

Tel : 075-253-1509 E-mail: gallery@kcuu.ac.jp 公式サイト : http://gallery.kcuu.ac.jp



京都市立芸術大学

Kyoto City University of Arts - founded in 1880 -

@KCUA

KYOTO CITY UNIVERSITY OF ARTS ART GALLERY



文化庁  
Agency for Cultural Affairs, Government of Japan



京都市

## ■ プレス向け画像貸出について

本プレスリリースに掲載している画像はメディア掲載時にご利用いただけます。

ご希望の方は広報担当(西谷)までお問い合わせください。